北大病院の北側に

来春、看護家族の滞在施設

小児がんや肝臓疾患など重い病気で長期の入院・治療が必要な患者に付き添う家族が安心して滞在できるように、来年春、北大病院の北側に「ファミリーハウス」が新設される。今年五月に創立五十周年を迎える北海道電力が、記念事業として寄贈を申し出た。北大が構内に土地を用意、北電が約一億三千五百万円かけて建設する。

「ファミリーハウス」は、一泊千円から三千円程度で宿泊できる看護家族のための滞在施設。

先端治療を受けるため、大学病院などに遠隔地から入院する場合、付き添う家族は、病気への不安に加えて、滞在費や旅費にも大きな負担を強いられる。

そうした家族の経済的な負担を軽くし、同時に、ボランティアやほかの家族との交流で精神的な支えにもなる場として、この数年、全国的に建設の動きが広がってきた。

朝日 13.1.5(30)

負担軽減、心の支えに

北電が寄贈し建設へ

道内でも、看護家族に部屋を安く提供している民間アパートやホテル、院内に宿泊施設を設けた病院はあるが、独立した「ファミリーハウス」はなかった。

北電の計画では、施設は軽量鉄骨二階建て、延べ五百三十平方メートル。バス、トイレ、台所付きでテレビやエアコン、冷蔵庫を備えた洋室八室のほか、談話室や多目的に使えるホールのような四十畳程度の部屋を設ける。

十月に着工、来年三月に北大病院側に引き渡す予定で、北大病院が管理運営していく。